

【講演会等報告】

レクチャー・コンサート 「^{ホムス}口琴から広がるサハの世界」

荏原小百合

開催日：2016年11月6日（日）

開催場所：北海道大学総合博物館1階ホール「知の交流」

主催：北海道大学総合博物館・北海道民族学会（共催）

後援：北海道大学文学研究科北方研究教育センター、塘路口琴研究会「あそう会」、国際口琴センター（サハ共和国）



◎演奏とおはなし（通訳：キム・ボリソフ）

- ・イヴァン・アレクセイエフ（1941年生、国際口琴センター代表、サハ北東連邦大学教授）
- ・スピリドン・シシーギン（1950年生、サハ共和国文化功労者、ポクロフスク第一小中高校校長）
- ・キム・ボリソフ（1982年生、国際口琴協会理事、サハ共和国代表部極東地区副常任代表）

◎司会と解説 荏原小百合（北海道大学大学院文学研究科専門研究員）

今回のレクチャー・コンサートでは、ホムスの演奏を中心に、サハの自然や人について、演奏者から直接話を聞く形ですすめられた。冒頭で主催者代表（津曲敏郎本会前会長）にアレクセイエフ氏から記念の冊子等が寄贈された。その後1人3曲ずつ曲目解説とともにホムスの独奏が行われた。

イヴァン・アレクセイエフ氏は、3人の来日目的が国際的な口琴に関する活動であること、サハ文化の中でも今回はホムスについて紹介することなどを述べた。そして、今回の来日で視察した考古学的資料（1000年前の口琴）にも触れ、1000年前の日本で、誰がこの楽器を作り、誰が演奏し、何を演奏したか、などについて考えた即興演奏が行われた。

スピリドン・シシーギン氏は、子供の頃、母親が友達と集まってホムスを演奏していたことに触れ、それが自身もホムスを演奏することに結びつき、55年間ホムスを大事にしてきたことを紹介した。氏は、以前はホムスを演奏するのはサハ民族だけだと思っていたが、1991年にサハで開催された第2回国際口琴大会（アメリカのフレデリック・クレインとイヴァン・アレクセイエフが中心となって開催）で、北海道から3名のムックリの演奏家が参加し、その後交流が現在まで続いており、そのムックリ演奏家たちが住む川上郡標茶町塘路にはこれまで6回も行ったという。その後、1991年の大会で演奏した曲目について解説があり、「私のホムスが今から歌います」と演奏が始まった。次に、サハ共和国の北にあるツンドラに関して説明があった。シシーギン氏からは、日本には8回きたが、ツンドラ

にはまだ行ったことがないという話があり、会場が湧いた。ツンドラで暮す人々はトナカイを飼育していること、冬はほとんど太陽が見えずオーロラに喜び、夏は逆に太陽が沈まないこと、夏が始まると喜んで踊ったり祭りをを行うことなどが紹介された。そして、そのツンドラについての演目が、トナカイやトナカイ飼育者の写真を背景に演奏された。最後に、「今から皆さんに演奏する楽器は、仲の良い鍛冶師が作った楽器で、鍛冶師は、みな優しい、心の強い人たちです。鍛冶師は、心のエネルギーを全部ホムスに与えます。ホムスのエネルギーは、ホムス演奏家を通じて、皆さんに良いエネルギーが伝わります。明るい波みたいなのを、ゆっくり聴いて下さい」という解説の後、3曲目が演奏された。

3人目に演奏したキム・ボリソフ氏は、6歳からホムスを演奏し、1995年に、北海道で開催された北方圏フォーラムに、サハ共和国初代大統領と共に、初代大統領専属演奏家として来道し、それ以来日本が大好きになり、大学では日本語学科にすみ日本語を身につけたというエピソードが、日本語で説明された。最初の曲は1998年にオーストリアで開催された国際口琴大会以来演奏している「スピードタイム」。2曲目は、少し小さめの口琴で即興演奏が行われた。3曲目は、ボリソフ氏が著名なホムス演奏者であるマルファ・バタイエヴァ氏から伝授されたスーヤ・タルディ（中庸な）という伝統的技法が披露された。

前半の締めくくりでは、ホムス演奏家と交流のある川上さやか氏がムックリを演奏して下さった。聴衆は、材質の異なる口琴の音色に聴き入った。

後半二部では、それぞれの独奏の後に、自然や動物を描写した演目が3人のアンサンブルで演奏された。1曲目は、鳥の鳴き声に関する演目。サハに飛来する雲雀やカッコウなどの鳴き声がホムス演奏で巧みに描写された。2曲目はサハ人にとってとても大切に神聖な動物である馬に関する演目が演奏された。それぞれの奏者が、馬が自由自在にかけまわる蹄の音などを見事に描写した。

最後に、会場からの参加者も含め十数名で、オフオハイ（輪踊り）を行った。アレクセイエフ氏が音頭を取り、他の参加者が「オーフオ、オーフオ、オーフオハイ、オーフオハイドゥール、オーフオハイ」の決まり文句を歌い、アレクセイエフ氏の即興歌に続いて全員が同じ歌詞を歌い、時計回りに輪が進んだ。定員80名の会場はほぼ満席の状態だった。

終了後には、文学部展示室に移動して、ホムス・ワークショップが行われた。参加者は、展示解説やホムス演奏体験、演奏者との交流を楽しんだ。

(えはら・さゆり／北海道大学大学院文学研究科 専門研究員)



写真1: シシーギン氏撮影の馬の写真を背景に3人で馬に関する演目の共演



写真2: オフオハイ（輪踊り）の様子